

それは娘を救いたい一心から始まりました。
望みは叶いませんでしたが、時を経て
多くの命を救うことになったIABPの開発。
今も天国から娘がエールを送ってくれている
と感じます。



筒井 宣政 氏 (高12回)

(株)東海メディカルプロダクツ 会長、(株)ヴァーユ 代表取締役、
名古屋大学 客員教授、中京大学 特別荣誉客員教授、
中部医療機器工業協会 名誉会長、名古屋商工会議所 常議員
他多数

プロフィール

1941年名古屋生まれ、1960年東海高校卒業。1964年関西学院大学経済学部卒業後、東海分子化学(株)入社。1981年10月(株)東海メディカルプロダクツ設立、代表取締役就任。1982年東海分子化学(株)代表取締役就任。1986年日本初のIABP(大動脈内バルーンポンピング)カテーテルを開発。1989年発売開始。1991年(株)ヴァーユ設立、代表取締役就任。2012年(株)東海メディカルプロダクツ代表取締役退任、会長就任。

多岐にわたる役職を務め、過去には通産省や科学技術庁、厚生省、文科省等の委員や事業参与をはじめ、医療、医療機器、科学技術、産業等の分野を中心に重責ある役職を務めてきた。賞歴も数多く、紺綬褒章、黄綬褒章、叙勲 旭日双光章授与の他、科学技術庁長官賞、(公社)高分子学会平成23年度フェロー等を受賞。また薬事功労者として厚生労働大臣表彰、EYワールド・アントプレナー・オブ・ザ・イヤー 2016日本代表(モナコ公国)という榮譽も受けている。会社としても紺綬褒章授与の他、経産省「地域未来牽引企業」に選定等、数々の受賞が挙げられ、個人としても会社としてもその活動実績、功績は枚挙に遑がない。

娘を救いたくて取り組んだ人工心臓の開発には多くの困難が待ち受けていました。

私の娘、二女の佳美は先天性の心臓疾患を持って生まれました。救命を求めて国内外の病院を回ったものの、9歳の時に現代の医学では手術不可能と診断されてしまったのです。手術費用にと貯めたお金を妻の提案を受けて寄付すべく、当時の(財)日本心臓血圧研究所へ申し出たところ、人工心臓の研究開発を薦められました。そこで素人ながら医療の世界に踏み込む決心をしたのです。そこから想像を絶する闘いが始まりました。まず専門用語が全くわからないし、教授から教えてもらってもちんぷんかんぷ

んでした。開発に必要な知識は医学、化学、電気工学、生物学、動物学等々多岐の分野にわたります。要は学際的な仕事なのですね。1978年から研究を開始し、国や公的機関の研究助成金を受けられるよう1981年に東海メディカルプロダクツを設立、1986年には動物実験ができるような人工心臓を作りました。しかし実用化には壁が厚く、断念せざるを得なかったのです。でもここで諦める訳にはいきません。人工心臓開発の過程で読んだ多くの論文の中に出ていたIABPバルーンカテーテルに着目。人工心臓からIABPの開発に切り替え研究に熱中、約2年後に国産初のIABPを完成させました。医学界か

らは素人にできる訳ないと思われていましたが、私には長年培ってきた樹脂加工の経験と、人工心臓開発の過程で得た知見や独自の技術がありましたので、開発には秘めた自信があったのです。ただ国産初のため厚生省に許認可の判断・審査基準が無く、同省の官僚らと一緒にIABPの基準作りをして、1989年には発売を開始しました。

しかしこのIABPでは娘の命を救うことは叶わず、1991年に娘は23歳で亡くなりました。カテーテルの開発に没頭して半年ほどが過ぎた頃、入院していた娘の佳美に人工心臓からカテーテルの開発に切り替えねばならなかったこと、その知見と技術を生かして作るIABPは心筋梗塞の人の命を助けるカテーテルであるが、佳美の心臓を助けることはできないことを断腸の思いで告げました。娘は微笑みながら「私の病気のためにお父さんお母さんが猛勉強して取り組んでくれたことがとても嬉しいし、私のことはいいので多くの人を助けてほしい。そしてそのための開発を目指しているお父さんとお母さんは私の誇りです。」と言ってくれました。私と妻は娘の優しさと人工心臓が実現しなかった申し訳なさで胸が詰まりました。

採算は工夫で何とかあります。

それより命を救うことが目的。創業来の精神です。

私どもが開発したIABPは世界一安全で機能的な製品として、カナダのトロントでバイオマテリアル学会賞を受賞しました。当時既にあった外国製のもの素材が硬く柔軟性に欠け、サイズのバリエーションも少なかったため、全ての人に適用できるものではありませんでした。特に体の小さい日本人には無理があったのです。私どもが開発したIABPは世界各国で使われるようになり、娘が望んだように多くの命を救ってきました。

東海メディカルプロダクツのIABPバルーンカテーテルは、狭心症や心筋梗塞などの心臓の動きが悪くなった患者に対し、心臓のサポートをするカテーテルです。特に心臓病で倒れた患者に救命救急的に使われます。要は弱った心臓ポンプ機能を一時的に補助するのです。治療す

るためにはPTCA(バルーンカテーテル)など治療用のカテーテルを使用します。

ある時、赤ちゃんの肺動脈弁の障害に対して、赤ちゃん用のカテーテル・PEDバルーンカテーテルの開発を依頼されました。10万人に1例というような症例ですから、どこのメーカーも手を出しません。でも私たちの会社は1人でも多くの命を救いたいというのが理念ですから開発に着手、必死の思いで開発に成功しました。会社では開発チーム、総務、経理、営業も皆が一つになって挑みましたね。そのPEDバルーンカテーテルが使われる時、立ち会いに行きました。先ほどまで浅黒い肌だった赤ちゃんの顔がパーっとピンク色になって…。ものすごく嬉しかったですね。

我が社が上場しないのは、株主さんが採算の取れない事案に手を出すことを許さないかもしれない、という懸念からです。もちろん会社というのは健全に運営できなければいけません。決して利益追求第一の会社にはしたくないのです。とてもよく売れるもので稼ぎ、その収益の一部を採算の取れない開発に回します。より安全でより機能的に良いものを追求する、そんな会社です。

どんなことにもへこたれず諦めないのは柔道で培った体力と精神力の賜物です。

高校2年の時、柔道の団体戦で全国優勝を果たしたのですが、私は選手でマネージャーをしていました。柔道部では大会に向けて師範と共に戦略を練り、とことん練習をしましたね。そもそも私は中学時代に遊び気分で入った柔道部でしたが、厳しい練習の中で面白さに目覚めていきました。全国優勝というのは私にとっては単に結果です。それより毎日の厳しい練習や戦略を立てる面白さに夢中になりました。戦略に沿った戦い…例えば引き分けを求める戦略の場合、投げることができても引き分けに持ち込むという感じです。屈辱的な思いを抑えなくてはなりませんから精神力が鍛えられましたし半端ない鍛錬で体力もついたと思います。柔道で教えられ培った精神力と体力は、何があっても諦めずに前に進もうとする、私という人間を作っ

たのだと感じますね。

保証人になって多額の負債を抱えた親の会社を引き継いだ時も、長男の義務だと自然に受け止めました。ただ借金返済には72年かかるというので、何とか打開策をと考えたのです。アフリカでの体当たり営業に奔走し、開発したビニールの髪結紐が爆発的に売れ、結局7年で借金を完済できましたよ。

今年6月公開の映画『ディア・ファミリー』と原作となったノンフィクション小説。

今から5年ほど前のこと、東宝さんから私たち家族や会社の挑戦と軌跡を映画にしたいというお話を頂きました。そのきっかけはノンフィクション作家・清武英利さんの紹介だったそうです。清武さんとは、彼が読売新聞中部本社（現：中部支社）の社会部長を務められていた頃からの長い付き合いです。何か別の取材でお会いしたのですが、東海メディカルプロダクツに大変興味を持たれたとのこと。それ以降取材という形ではなく、何度も食事したり飲みに行ったりして色々お話ししました。東宝さんから相談を持ちかけられた時に、私どもの話をしたのだそうです。今回の映画の元になったのは清武さんが書かれた『アトムの心臓「ディア・ファミリー」23年間の記録』という本（2024年4月9日発売/文春文庫）です。

映画化が決まって間もなく世はコロナ禍。それが明けた頃、撮影を始めたいと連絡がありました。

撮影に先駆けて主演の大泉洋さんが直接お話ししたいとのことで名古屋の私の自宅まで来られ、予定を遥かに超える時間、滞在されました。大泉さんは私のプロフィールや関連することを

お調べになり、私が園遊会や即位の礼に招待されたこともご存じで、最初は大変緊張しておられましたね。私の家には茶室が二つあり、その茶室ではざっくばらんな話で盛り上がりましたよ。因みに名大に寄贈した茶室は「白蓮庵」という名ですが、これは茶道を嗜んでいた娘の戒名からの命名なのです。私が茶道を始めたのも娘の影響です。

昨年、試写会を観て感じたのは、映画は脚色された部分もあり事実を元にしたフィクションですが、私の考え方や心象がよく投影された出来栄えだったことです。是非多くの方々に観て頂き、ノンフィクションの本もお読み頂きたいです。

モノづくり愛知の底力をさらに充実させ医療分野の世界でも協働していきたいですね。

私は経済学部出身で医療に関しては門外漢でした。人工心臓を開発するために勉強、研究した時に思ったのは、日本には各分野の専門家は素晴らしい人がおられるのに、全ての分野に精通するスペシャリストがいないということです。医療機器の開発には学際的な知見が必要なのです。

かつて愛知県の商工会議所では医療系の部会がありませんでしたので、まずメディカル産業振興研究会を立ち上げました。そしてメディカルデバイス産業振興協議会へと発展させていきました。今はまだ道半ばですが、全国の商工会議所へと広げていくことになります。愛知県はモノづくりに秀でた地。日本の医療機器の集積地になりつつあるのです。

「医療機器のことなら愛知に行け」と。

〈令和6年ゴルフ大会〉

日時 令和6年10月19日(土)
会場 東名古屋カントリークラブ 西コース
定員 40組(160名)
ショットガンスタート方式

同封の案内兼申込書でお申込みください。満員になり次第受付を終了いたします。

